山弓連会報 平成8年度第3号

さんきゅうれん

平成8年8月26日発行

山弓連

平8年・第3号

「関東代表権」いま一歩及ばず

ミニ国体（国体関東予選）で 県選手健斗

8月25日（日）神奈川県厚木市で開催。ことしから成女二部が廃止され少男・少女・成女3種別の関東代表を決める予選会に、当家からは次の選手が出場した。

○少男 白須西・井上直也・山口雅仁
○少女 小林悦子・橋戸梢・清水礼
○成女 渡辺美季・塩沢美絵・加藤ゆり枝

少年男子

近的前半8中4位と出遅れたが、後半12射皆中して追い上げ、合計2位となって希望ふくらむ。特に白須の8中はみごとであった。おおいに気をよくして臨んだ遠的だったが、これが意外にふるわず、前半7中。「後半の奇蹟ふたたび」の願いも空しく合計15中6位。結局総合順位3位となり、代表わく「2」に、文字通り一歩及ばなかった。遠的の不振は、あるいは直前まで戦っていたインターハイにその原因があったかも知れず、止むを得ないことだったかも知れない。

少年女子

近的前半9中と、いきなりトップに躍り出る。幸先ヨシ。しかし後半くずれて5中が痛かった。結局5位にとどまる。これで気を落としたか、遠的は8中で8位。総合順位7位となり、落選。特にことしは代表わく4という願ってもない年であっただけに、近的前半の勢いを持続できなかったことが惜しまれた。

成年女子

近的前半9中3位で発進。まずまずの出来。しかし後半やや調子を落として7中、第4位となる。望みを遠的につないで奮起17中したが、同中3県競射の結果3位となり望みが消えた。総合順位4位で、これまた、まさに「一歩及ばず」となった。しかし、近的16中、遠的17中は、去年までなら代表枠に届いた数字で、一応善戦というべきかも知れない。

この結果、10月12日から広島で開かれる本大会には、本県からは成年男子（荒井紀彦、白須吉人、中込実）のみの出場ということになった。

（ミニ国体の成績）

種別	種目 成績 都県	近的 的中	近的 順位	遠的 的中	遠的 順位	総合 順位（代表〇）
少年男子	茨城	17	4	13	8	7
	栃木	18	3	21	1	②
	群馬	21	1	21	2	①
	埼玉	17	5	19	3	4
	千葉	15	7	16	4	5
	東京	12	8	14	7	8
	神奈川	16	6	16	5	6
	山梨	20	2	15	6	3
少年女子	茨城	18	2	16	1	②
	栃木	16	4	15	3	③
	群馬	17	3	13	6	④
	埼玉	11	6	14	5	5
	千葉	19	1	15	2	①
	東京	10	8	14	4	6
	神奈川	10	7	9	7	8
	山梨	14	5	8	8	7
成年女子	茨城	18	1	17	2	①
	栃木	11	6	9	7	7
	群馬	10	8	10	6	8
	埼玉	11	7	12	5	5
	千葉	11	5	9	8	6
	東京	17	3	17	1	②
	神奈川	17	2	12	4	③
	山梨	16	4	17	3	4

昇段おめでとう

小尾幸夫さん 六段

20才代半ばで五段取得、その豪快な射と、竹を割ったような性格と、抜群の行動力とで「若手のホープ」「山梨の星」と期待されていた。その後仕事が忙しくて暫らく足が遠のいていたが、このところまた一念発起、63年錬士、今回六段と着実に腕を上げてきた。方面にも、韮崎高コーチ、韮崎支部結成、北巨摩支部副支部長など、その行動力にものを言わせて、地域リーダーとして活躍した。更にいっそうの精進と活躍を期待すること切。

昭和24年生まれの47才。しかしその正義感と鋭い舌鋒は青年時代と変らない。一見コワモテに見えるが、文学を愛する、やさしい好青年？でもある。

綿奈部博史さん 錬士

通称「メンナベさん」。ホントは「ワタナベヒロフミさん」。いつの頃からか突然県連射会に出てきて立派な弓を引くので「あの人はどこの人？」などと言う人もあったが……それもその道理、昭和61年に横河電機の社員として来県した。以来、勤労者大会、県連射会等で活躍し、顔なじみとなった。このところ、勤労者全国大会、関東選抜大会等の常連である。また、甲府支部副支部長、横河電機甲府弓道部長として、後進の指導にもあたっている。

今回の錬士昇格により、いっそうの指導力を発揮されんことを切望する。昭和26年生まれの45才。東京時代から、浦上同門会員。甲府市大里町在住。

幡野太可志さん 錬士

ことし四月の会員弓道講習会に参加して錬士推薦を受けた。弓歴は既に20年余りになる。現在山弓連都留支部長（3期6年）をつとめ、また、都留文大、桂高校の弓道クラブ活動の指導にもあたっている。かつて都留市は山弓連発展の拠点の一つでもあった。今回の昇格により、そのエネルギーをもって、再び「都留の弓道」の発展に寄与して下さるよう祈ってやまない。聞くところによれば、都留市弓道教室を毎年開催して、底辺の拡大と後進指導にあたっているとか。昭和6年生まれの66才だが、まだまだとてもそんなトシには見えない。益々ご精進、ご活躍を祈る。

関東選手権 健斗実らず

関東選手権大会兼全日

本選手权大会関東予選が7月28日大宮弓道場で開催され、本県からは、

（有段）荒井紀彦、小俣大一、綿奈部博史
白須吉人
（錬士）永井秀太郎、不動田光照
（女子称号）標 衣枝、中村ミツエ
（教士）大村利正、佐野辰巳

の10選手が出場し、関東各都県の強豪と技を競ったが、戦い利あらず、成績は別表のような結果となった。

「全日本」の予選については、点数制審判の結果、男女別上位10人を関東代表としたが、本県では佐野辰巳選手が第10位となって関東代表のわくを確保したので、県代表一名の（大村利正選手）と共に全日本選手权大会に出場できることになった。女子の部は、残念ながら、10位以内の点数が得られなかったので関東代表はなし、県代表二名のわくについても、出場可能な選手がなく、棄権することになる。

全日本選手权大会には 関東代表一名獲得

地連	有段	称号	合計
神奈川	13	25	38
山梨	10	11	21
東京3	14	26	40
群馬	16	15	31
栃木	17	14	31
茨城	18	21	39
埼玉	12	19	31
東京1	13	25	38
千葉	12	13	25
東京2	13	22	35

（的中集計）各人6射

中学総体弓道競技

7月28日緑が丘弓道場で開催された。男子6校52人、女子7校72人が参加。個人戦、団体戦とも各12射の競技を行った結果、次のような成績となった。

種別	入賞
男子 団体 一位	増穂A（望月・[illegible]・芦沢）17中
男子 団体 二位	石和C（[illegible]・青柳）15中
男子 団体 三位	櫛形（久保・中込・渡辺）14中
男子 個人 一位	樋口紀美彦（増穂）8中
男子 個人 二位	小林悠太（櫛形）8中
男子 個人 三位	芦沢佑司（増穂）6中
女子 団体 一位	下高C（[illegible]・渡辺）16中
女子 団体 二位	櫛形C（斎藤・[illegible]）16中
女子 団体 三位	櫛形A（斎藤・斎藤・切刀）15中
女子 個人 一位	切刀美幸（櫛形）8中
女子 個人 二位	斎藤奈都美（櫛形）8中
女子 個人 三位	渡辺美紀（下高）6中

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

インターハイ山梨大会

平成8年全国高等学校総合体育大会弓道競技、第41回全国高等学校弓道大会（通称インターハイ）という長～い名まえの大会が8月5～8日新装成った武道館で開催された。数年間かけて、高体連弓道部が丹念に準備してきただけあって、運営はみごと。100パーセントスムーズに終始した。

成績は、男子個人井上直也（巨摩）決勝進出、女子個人橋戸梢（甲府南）準決勝進出、男子団体北富士トーナメント一回戦まで、女子団体巨摩高トーナメント二回戦までと、結局、入賞ゼロに終わった。予想としては、個人・団体とも入賞期待があったが、地元開催ということで、各校顧問が競技役員、運営役員の業務に忙殺され、いつものようなハードな練習が出来なかったということもあって、こういう条件の中ではまずまずという評価もある。

県連からは、29名の審判員の他、高校OBを中心とした会員多数が競技役員として協力した。

夏休み審査会

8月25日、緑が丘弓道場で、査定及び二段以下の昇段審査会が行われた。この審査は、昨年新設されたものだが、昇段機会を少しでもふやすことが、会員の利益になるという意図で始めたものだった。これは、高校生にとっては、夏休み中で受審し易いし、特に3年生たちにとっては秋以降の進学・就職準備の前に、部活の区切りとして受審させたいという意味があった。が、今回の受審者数34名、内、欠席2名。（昨年は67名）出席内訳は、高一20名、高二6名、高三1名、大学生5名であった。意図がやや空まわりの感。今後、高体連との協議の中で、来年度以降の必要性について詰めてみる必要がありそう。尚、当日の審査員の感想の一部を抄録すると、

- ・査定受審者には、かなりの技術の差あり。
- ・坐射の作法、入退場のしかたなどについての練習不足が目立つ。わからない者も……。
- ・「打起してからの物見」10人余。練習方法に問題か？
- ・学科は比較的好成績だった。

◎参考の為に～会員弓道段級基準（抄）

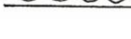
五級・弓道修練の初歩的段階にある者
四級・[illegible]ある指導を受けており、弓矢の扱い方に進歩があると認められる者
三級・射の基本動作及び弓矢の扱い方が整い、[illegible]指導の下に修練を続けたと認められる者
二級・修練の程度が三級に比し進歩していると認められる者
一級・射型及び体配が概ね適正であると認められる者
初段・射型・体配及び射の運行共に型にかない、矢所の乱れぬ程度に達した者
（以下略）

事務局から

○暑さもようやく峠を越して、秋は諸大会、審査会などめじろ押し。がんばって腕を磨き、腕を上げて下さい。

○役員の中に身体の不調で「新しリタイア」が出ました。何よりも健康がモトデ。くれぐれもご自愛の程を。

○市町村実施大会日など、地域の情報があったらお知らせ下さい。会報にのせます。

○あかあかと日はつれなくも秋の風（芭蕉）